

3月の果実の見通し

平成31年2月28日現在
山形県東京事務所

| 区分 品目 | 主産地 | 入荷量(t) | | | 単価(円/kg) | | | 山形県産前年実績 | | 販売見通し |
|----------|----------------------------|--------|------------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------------|------------------|---|
| | | 前年実績 | 前年比 見込 (%) | 5ヵ年 平均 | 前年実績 | 前年比 見込 | 5ヵ年 平均 | 前年 入荷量 (t) | 前年 占有率 (%) | |
| りんご類 | 青森 | 6,324 | 110% | 6,832 | 328 | 安い | 302 | 19 | 0.3% | 青森産の貯蔵品のみの出回り。全体的に品薄感の強かった前年比では「サンふじ」中心に在庫量が多くなっているが、過去3ヵ年と比べてみれば多いわけでは無い。積極的な販促活動も展開されており、荷動きは悪くないが、30年産りんごは台風襲来などの天災によるキズ果・スレ果が多く発生し、下等級品比率が高めなために全体平均価格は下がる見込み。量販店などでも主力商材のひとつとして広く扱いがあるが、小袋や小箱などに複数個詰めた形態での販売がされる一方でバラ売り主体となる大玉品は販売苦戦となる場面もあろう。 |
| いちご類 | 栃木 福岡 静岡 佐賀 ほか | 2,205 | 105% | 4,792 | 1,116 | やや 安い | 1,142 | - | - | 2月の天候は曇雨天が続き気温も低くなることで生育にバラつきが出始め中・下旬からの出荷量は伸び悩んだ。関東産「とちおとめ」は3月上旬までは出荷量は少なく中旬から3果房が増えピークに入る。九州産「あまおう」は2月中旬からダラダラ出荷が3月中旬まで続き下旬から3果房のピークに入り下旬はいちご全体に多くなる。 |
| キウイ | 福岡 和歌山 愛媛 ほか | 921 | 90% | 915 | 463 | やや 安い | 479 | - | - | ニュージーランド産は店頭での販売も1月でほぼ終了となり、2月に入ってからは国産の引合いが強まってきている。シーズン当初は小玉果の販売に苦戦する場面もあったが、2月半ば時点では大玉から小玉まで注文はあり、荷動き良好。販売環境の良さもあって各産地共に例年と比べて前倒し気味の出荷となっており、3月いっぱい終了となるころも多そう。もともとの生産量自体も少ないが、4月以降の残量は前年と比べて大幅に少ない見込み。 |
| みかん類 | 静岡 長崎 熊本 ほか | 2,269 | 100% | 2,420 | 323 | 高い | 329 | - | - | 中心産地である静岡は前年を上回る出荷量となっているが、販売環境は悪くない。前年は裏年で品薄感が強かったが高なやみ傾向となって流通在庫が膨らんで年明け以降徐々に価格を下げるという例年とは逆の展開であった。今年は前倒し気味の出荷で数量の減りこみも当初見込みより早まったことから、堅調な販売が継続。3月は『誉れ』などの特別な商品や香川・徳島の貯蔵品のみの販売となり、価格は2月よりも上昇し、前年比高の展開となろう。 |

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果㈱)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)